

独立宣言 (1776年)

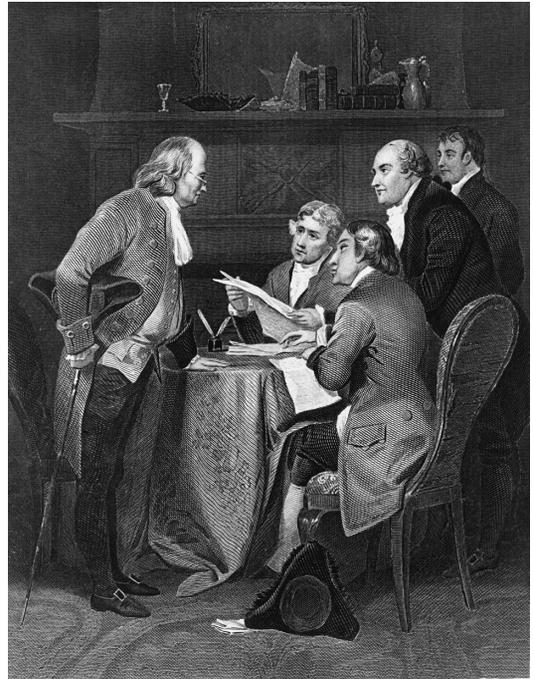
1763年にフレンチ・インディアン戦争が終結した後、英国は北米における最大の勢力としての存在を確立した。この勝利により英国は北米での存在を大きく拡大させたが、英国政府はこの戦争によって多大な負債を抱えることになった。英国は、フレンチ・インディアン戦争中に植民地からの協力が不足していたとの不満を抱き、植民地が最小限自らの政府と安全保障の費用を負担することを要求した。

英国は、植民地の議会を無視して各種の直接税や法律を適用することによって植民地に対する支配を強化し始めた。これは植民地の多くの住民の反感を買った。1764年に英国議会が制定した砂糖法は、植民地からの税収増を具体的な目標とする最初の法律であった。砂糖法に続いて、植民地が独自の通貨を発行することを禁止した通貨法、植民地が英国の軍隊に宿舎と物資を提供することを義務付けた宿営法、そしてすべての文書および荷物に税金が支払われたことを示す印紙を張ることを義務付けて植民地に直接課税をする印紙法が制定された。これらの法律に違反した者に対しては、英国の任命した判事が、現地の陪審の同意を得ずに、厳しい判決を下すことが多かった。

こうした法律に対して、植民地の住民は組織的な抗議を行い、英国議会における適切な代表なしに課税されることに反対した。彼らは、英国政府の制定した強硬な措置は、英国国民としての彼らの権利を侵害するものであると考えた。また彼らは、政府はその市民の日常生活に干渉すべきではないが、市民の自由と財産を確保し保護するべきであると考えた。

1774年9月5日、ペンシルベニア州フィラデルフィアで第1回大陸会議が開催され、13の植民地のうち12の植民地の代議員が出席した。この会議で、グレートブリテンおよびアイルランド連合王国の国王ジョージ3世に対する陳情書「権利宣言」が作成された。また、植民地の人々に英国製品を使わないよう促す1774年の連帯決議が採択された。この会議で代議員らは、英国が陳情に対して十分な対応をしなかった場合に備えて、1775年5月10日に第2回大陸会議を開催することを計画した。

第2回大陸会議は1775年5月に開催され、激しい討論の末に、英国との和解は不可能であるとの結論に達した。1776年6月7日、バージニアの代議員リチャード・ヘンリー・リーが、独立の決議を提案した。これを受けて大陸会議は、植民地の独立声明を起草するために、ジョン・アダムズ、ベンジャミン・フランクリン、トマス・ジェファソン、ロバート・R・リビングストン、およびロジャー・シャーマンを指名した。実際に文書を執筆する役割はジェファソンに与えられた。



英国からの正式な独立を宣言する文書を起草する建国の父たち。

独立宣言の執筆に当たり、ジェファソンは、自然権と個人の自由という理念を重視した。これらは、17世紀の哲学者ジョン・ロックらによって広く提唱されていた理念であった。独立宣言の冒頭には、「すべての人間は生まれながらにして平等であり、その創造主によって、生命、自由、および幸福の追求を含む不可侵の権利を与えられている」と述べられている。さらにジェファソンは、英国に対する正式な苦情を列記し、植民地が母国から完全に独立しようとする決断を正当化した。この文書は、1776年7月2日、検討・討論のため大陸会議に提出され、2日後の1776年7月4日、大陸会議は満場一致で独立宣言を採択した。

独立宣言の署名者56人のうち8人は外国生まれであった。それは、バトン・グウィネット（英国）、フランシス・ルイス（ウェールズ）、ロバート・モリス（英国）、ジェームズ・スミス（アイルランド）、ジョージ・テイラー（アイルランド）、マシュー・ソントン（アイルランド）、ジェームズ・ウィルソン（スコットランド）、およびジョン・ウィザースプーン（スコットランド）の8人であった。

独立宣言

1776年7月4日第2回大陸会議により採択
13のアメリカ連合諸邦による全会一致の宣言

人類の歴史において、ある国民が、他の国民とを結び付けてきた政治的なきずなを断ち切り、世界の諸国家の間で、自然の法と自然神の法によって与えられる独立平等の地位を占めることが必要となったとき、全世界の人々の意見を真摯に尊重するならば、その国の人々は自分たちが分離せざるを得なくなった理由について公に明言すべきであろう。

われわれは、以下の事実を自明のことと信じる。すなわち、すべての人間は生まれながらにして平等であり、その創造主によって、生命、自由、および幸福の追求を含む不可侵の権利を与えられているということ。こうした権利を確保するために、人々の間に政府が樹立され、政府は統治される者の合意に基づいて正当な権力を得る。そして、いかなる形態の政府であれ、政府がこれらの目的に反するようになったときには、人民には政府を改造または廃止し、新たな政府を樹立し、人民の安全と幸福をもたらす可能性が最も高いと思われる原理をその基盤とし、人民の安全と幸福をもたらす可能性が最も高いと思われる形の権力を組織する権利を有するという、ことである。もちろん、長年にわたり樹立されている政府を軽々しい一時的な理由で改造すべきではないことは思慮分別が示す通りである。従って、あらゆる経験が示すように、人類は、慣れ親しんでいる形態を廃止することによって自らの状況を正すよりも、弊害が耐えられるものである限りは、耐えようとする傾向がある。しかし、権力の乱用と権利の侵害が、常に同じ目標に向けて長期にわたって続き、人民を絶対的な専制の下に置こうとする意図が明らかであるときには、そのような政府を捨て去り、自らの将来の安全のために新たな保障の組織を作ることが、人民の権利であり義務である。これらの植民地が耐え忍んできた苦難は、まさにそうした事態であり、そして今、まさにそのような必要性によって、彼らはこれまでの政府を変えることを迫られているのである。現在の英国王の治

世の歴史は、度重なる不正と権利侵害の歴史であり、そのすべてがこれらの諸邦に対する絶対専制の確立を直接の目的としている。このことを例証するために、以下の事実をあえて公正に判断する世界の人々に向けて提示することとする。

国王は、公共の利益にとって最も有益かつ必要である法律の承認を拒否してきた。

国王は、国王自らの承認が得られるまで執行を保留するとうたわれていない法律の場合は、緊急かつ切迫した重要性を持つ法律であったとしても、植民地の総督に対し、そのような法律を通過させることを禁止した。また、保留条項のある法律に関しては、まったく注意を払わず、放置した。

国王は、人民の英国議会における代表権を放棄しなければ、広大な地域の人民のためとなるその他の法律を通過させることを拒否すると威嚇した。こうした権利は、人民にとって計り知れないほど貴重なものであり、それを恐れるのは専制君主のみである。

国王は、立法府を疲弊させ、国王の政策に忍従させることを唯一の目的として、定例の会場とは違う不便な場所、また議会の公文書の保管所から離れた場所で議会を召集した。

国王は、植民地の代議院が国王による人民の権利侵害に対し果敢に断固として反対したという理由で、各代議院を何度も解散させた。

国王は、そのような解散を行った後、新たに各代議院を選出することを長期にわたって拒否してきた。それにより、消滅させることのできない立法権の行使は、人民全体に戻されるところとなり、その間、諸邦は外からの侵略および国内の動乱のあらゆる危険にさらされた。

国王は、諸邦への人口増加を防止しようと努めた。その目的のために外国人帰化法を妨げ、この地への移住を奨励するその他の法律の通過を拒み、新たな土地取得の条件を厳しくした。

国王は、司法権を確立する法律を承認することを拒むことによって、司法の執行を妨げてきた。

国王は、判事の任期およびその給与の額と支払方法を、国王の一存で左右できるようにした。

国王は、おびただしい数の官職を新たに設け、この植民地の住民を困らせ、その財産を消耗させるために、多数の役人を派遣してきた。

国王は、われわれの立法府の同意を得ることなく、平時においてもこの地に常備軍を駐留させている。

国王は、軍隊を、文民統制から独立させ、かつそれよりも優位にたたせるような措置をとってきた。

国王は、他者と共謀し、われわれの政体とは相容れない、またわれわれの法律によって認められていない司法権にわれわれを従わせようとしてきた。そして、見せかけの立法行為による以下のような法律を承

認してきた――

われわれの間に大規模な軍隊を宿営させる法律。

その軍隊が諸邦の住民に対して殺人を犯すようなことがあった場合でも、見せかけばかりの裁判によって彼らを処罰から免れさせる法律。

われわれの世界各地との貿易を遮断する法律。

われわれの同意なしにわれわれに課税をする法律。

多くの裁判において、陪審による裁判の恩恵を奪う法律。

われわれを偽りの罪で裁くために海を越えて移送する法律。

隣接した王領植民地で英国法の自由な制度を廃止し、そこに専制的な政府を樹立し、しかもその境界を拡張することによって、その政府を、われわれの植民地に同様の専制統治を導入するための先例とし、また格好の手段とする法律。

植民地の設立特許状を剥奪し、われわれの最も貴重な法律を廃止し、われわれの政府の形態を根本的に変える法律。

植民地の立法機関を一時停止させ、いかなる事項においてもわれわれに代わって英国議会が立法を行う権限を与えられていると宣言する法律。

国王は、われわれを国王による保護の対象外であると宣言し、われわれに対し戦争を仕掛けることによって、植民地での統治権を放棄した。

国王は、われわれの領海で略奪行為を行い、沿岸地域を蹂躪し、町を焼き払い、人民の命を奪った。

国王は、最も野蛮な時代にもほとんど例を見ない、およそ文明国家の長として全くふさわしくない残忍さと背信行為の数々で、すでに始められている死と荒廃と専制の事業を完遂するために、現に外国人傭兵の大軍を輸送している。

国王は、公海で捕虜となったわれわれの同胞に、祖国に対して武器を取らせ、友人・兄弟に対する処刑人になるよう、あるいは自らの手で自ら命を落とすよう、強要してきた。

国王は、われわれの間に内乱を引き起こそうと扇動し、また、年齢・性別・身分を問わない無差別の破壊を戦いの規則とすることで知られる、情け容赦のない野蛮なインディアンを、辺境地帯の住人に対してけしかけようとした。

こうした弾圧のあらゆる段階で、われわれは最も謙虚な言辞で是正を嘆願してきた。われわれの度重なる嘆願に対しては、度重なる権利侵害で応えたに過ぎない。このように、専制君主の定義となり得る行為を特徴とする人格を持つ君主は、自由な人民の統治者として不適任である。

またわれわれは英国の同胞たちに対しても注意を怠ってきたわけではない。われわれは、彼らの議会がわれわれに対してまで不当な権限を押し広げようとする企てについて、折に触れて彼らに注意を促してきた。また、われわれがこの地へ移住し入植した状況を、彼らに改めて思い起こさせてきた。彼らの生来の遵法精神と寛大さに訴えるとともに、相互の結びつきと親交が必ずや断ち切られることとなるこうした国王の権利の侵害を認めないよう、われわれの血縁的なきずなをとおして訴えてきた。しかし彼ら英国の同胞も、正義の声と血縁の訴えに耳を貸そうとしてはいない。従ってわれわれは、分離を宣言する必要性を認めざるを得ず、彼らに対して、他のすべての人々と同様、戦時においては敵、平和時には友とみなさざるを得ない。

従ってわれわれアメリカ連合諸邦の代表は、大陸会議に参集し、われわれの意図が公正であることを、世界の最高の審判者に対して訴え、これらの植民地の善良な人民の名において、そしてその権威において、以下のことを厳粛に公表し宣言する。すなわち—これらの連合した植民地は自由な独立した国家であり、そうあるべき当然の権利を有する。これらの植民地は英国王に対するあらゆる忠誠の義務から完全に解放され、これらの植民地と英国との政治的な関係はすべて解消され、また解消されるべきである。そして自由で独立した国家として、戦争を始め、講和を締結し、同盟を結び、通商を確立し、その他独立国家が当然の権利として実施できるすべての行為を実施する完全な権限を有する—と。そして、われわれは、この宣言を支持するために、神の摂理による保護を強く信じ、われわれの生命、財産、および神聖な名誉をかけて相互に誓う。

連合会議の命令により、連合会議を代表して署名。

議長、ジョン・ハンコック

認証。

書記、チャールズ・トムソン

独立宣言署名人

ジョージア：

バトン・グウィネット

ライマン・ホール

ジョージ・ウォルトン

ノースカロライナ：

ウィリアム・フーパー

ジョゼフ・ヒューズ

ジョン・ペン

サウスカロライナ：

エドワード・ラトレッジ

トマス・ヘイワード・ジュニア

トマス・リンチ・ジュニア

アーサー・ミドルトン

マサチューセッツ：

サミュエル・アダムズ

ジョン・アダムズ

ロバート・トリート・ペイン

エルブリッジ・ゲリー

ジョン・ハンコック

メリーランド：

サミュエル・チェース

ウィリアム・パカ

トマス・ストーン

チャールズ・キャロル・オブ・キャロルトン

バージニア：

ジョージ・ワイス

リチャード・ヘンリー・リー

トマス・ジェファソン

ベンジャミン・ハリソン

トマス・ネルソン・ジュニア

フランシス・ライトフット・リー

カーター・ブラクストン

ペンシルベニア：

ロバート・モリス

ベンジャミン・ラッシュ

ベンジャミン・フランクリン

ジョン・モートン

ジョージ・クライマー

ジェームズ・スミス

ジョージ・テイラー

ジェームズ・ウィルソン

ジョージ・ロス

デラウェア：

シーザー・ロドニー

ジョージ・リード

トマス・マッキー

ニューヨーク：

ウィリアム・フロイド

フィリップ・リビングストン

フランシス・ルイス

ルイス・モリス

ニュージャージー：

リチャード・ストックトン

ジョン・ウィザースプーン

フランシス・ホプキンソン

ジョン・ハート

エイブラハム・クラーク

ニューハンプシャー：

ジョサイア・バートレット

マシュー・ソーントン

ウィリアム・ホイップル

ロードアイランド：

スティーブン・ホプキンズ

ウィリアム・エラリー

コネティカット：

ロジャー・シャーマン

サミュエル・ハンティントン

ウィリアム・ウィリアムズ

オリバー・ウォルコット



The Declaration of Independence (1776)

The unanimous Declaration of the thirteen united States of America,

When in the Course of human events, it becomes necessary for one people to dissolve the political bands which have connected them with another, and to assume among the powers of the earth, the separate and equal station to which the Laws of Nature and of Nature's God entitle them, a decent respect to the opinions of mankind requires that they should declare the causes which impel them to the separation.

We hold these truths to be self-evident, that all men are created equal, that they are endowed by their Creator with certain unalienable Rights, that among these are Life, Liberty and the pursuit of Happiness.--That to secure these rights, Governments are instituted among Men, deriving their just powers from the consent of the governed, --That whenever any Form of Government becomes destructive of these ends, it is the Right of the People to alter or to abolish it, and to institute new Government, laying its foundation on such principles and organizing its powers in such form, as to them shall seem most likely to effect their Safety and Happiness. Prudence, indeed, will dictate that Governments long established should not be changed for light and transient causes; and accordingly all experience hath shewn, that mankind are more disposed to suffer, while evils are sufferable, than to right themselves by abolishing the forms to which they are accustomed. But when a long train of abuses and usurpations, pursuing invariably the same Object evinces a design to reduce them under absolute Despotism, it is their right, it is their duty, to throw off such Government, and to provide new Guards for their future security.--Such has been the patient sufferance of these Colonies; and such is now the necessity which constrains them to alter their former Systems of Government. The history of the present King of Great Britain is a history of repeated injuries and usurpations, all having in direct object the establishment of an absolute Tyranny over these States. To prove this, let Facts be submitted to a candid world.

He has refused his Assent to Laws, the most wholesome and necessary for the public good.

He has forbidden his Governors to pass Laws of immediate and pressing importance, unless suspended in their operation till his Assent should be obtained; and when so suspended, he has utterly neglected to attend to them.

He has refused to pass other Laws for the accommodation of large districts of people, unless those people would relinquish the right of Representation in the Legislature, a right inestimable to them and formidable to tyrants only.

He has called together legislative bodies at places unusual, uncomfortable, and distant from the depository of their public Records, for the sole purpose of fatiguing them into compliance with his measures.

He has dissolved Representative Houses repeatedly, for opposing with manly firmness his invasions on the rights of the people.

He has refused for a long time, after such dissolutions, to cause others to be elected; whereby the Legislative powers, incapable of Annihilation, have returned to the People at large for their exercise; the State re-

maintaining in the mean time exposed to all the dangers of invasion from without, and convulsions within.

He has endeavoured to prevent the population of these States; for that purpose obstructing the Laws for Naturalization of Foreigners; refusing to pass others to encourage their migrations hither, and raising the conditions of new Appropriations of Lands.

He has obstructed the Administration of Justice, by refusing his Assent to Laws for establishing Judiciary powers.

He has made Judges dependent on his Will alone, for the tenure of their offices, and the amount and payment of their salaries.

He has erected a multitude of New Offices, and sent hither swarms of Officers to harrass our people, and eat out their substance.

He has kept among us, in times of peace, Standing Armies without the Consent of our legislatures.

He has affected to render the Military independent of and superior to the Civil power.

He has combined with others to subject us to a jurisdiction foreign to our constitution, and unacknowledged by our laws; giving his Assent to their Acts of pretended Legislation:

For Quartering large bodies of armed troops among us:

For protecting them, by a mock Trial, from punishment for any Murders which they should commit on the Inhabitants of these States:

For cutting off our Trade with all parts of the world:

For imposing Taxes on us without our Consent:

For depriving us in many cases, of the benefits of Trial by Jury:

For transporting us beyond Seas to be tried for pretended offences

For abolishing the free System of English Laws in a neighbouring Province, establishing therein an Arbitrary government, and enlarging its Boundaries so as to render it at once an example and fit instrument for introducing the same absolute rule into these Colonies:

For taking away our Charters, abolishing our most valuable Laws, and altering fundamentally the Forms of our Governments:

For suspending our own Legislatures, and declaring themselves invested with power to legislate for us in all cases whatsoever.

He has abdicated Government here, by declaring us out of his Protection and waging War against us.

He has plundered our seas, ravaged our Coasts, burnt our towns, and destroyed the lives of our people.

He is at this time transporting large Armies of foreign Mercenaries to compleat the works of death, desolation and tyranny, already begun with circumstances of Cruelty & perfidy scarcely paralleled in the most barbarous ages, and totally unworthy the Head of a civilized nation.

He has constrained our fellow Citizens taken Captive on the high Seas to bear Arms against their Country, to become the executioners of their friends and Brethren, or to fall themselves by their Hands.

He has excited domestic insurrections amongst us, and has endeavoured to bring on the inhabitants of our frontiers, the merciless Indian Savages, whose known rule of warfare, is an undistinguished destruction of all ages, sexes and conditions.

In every stage of these Oppressions We have Petitioned for Redress in the most humble terms: Our re-

peated Petitions have been answered only by repeated injury. A Prince whose character is thus marked by every act which may define a Tyrant, is unfit to be the ruler of a free people.

Nor have We been wanting in attentions to our Brittish brethren. We have warned them from time to time of attempts by their legislature to extend an unwarrantable jurisdiction over us. We have reminded them of the circumstances of our emigration and settlement here. We have appealed to their native justice and magnanimity, and we have conjured them by the ties of our common kindred to disavow these usurpations, which, would inevitably interrupt our connections and correspondence. They too have been deaf to the voice of justice and of consanguinity. We must, therefore, acquiesce in the necessity, which denounces our Separation, and hold them, as we hold the rest of mankind, Enemies in War, in Peace Friends.

We, therefore, the Representatives of the united States of America, in General Congress, Assembled, appealing to the Supreme Judge of the world for the rectitude of our intentions, do, in the Name, and by Authority of the good People of these Colonies, solemnly publish and declare, That these United Colonies are, and of Right ought to be Free and Independent States; that they are Absolved from all Allegiance to the British Crown, and that all political connection between them and the State of Great Britain, is and ought to be totally dissolved; and that as Free and Independent States, they have full Power to levy War, conclude Peace, contract Alliances, establish Commerce, and to do all other Acts and Things which Independent States may of right do. And for the support of this Declaration, with a firm reliance on the protection of divine Providence, we mutually pledge to each other our Lives, our Fortunes and our sacred Honor.

The 56 signatures on the Declaration appear in the positions indicated:

Georgia:

Button Gwinnett
Lyman Hall
George Walton

North Carolina:

William Hooper
Joseph Hewes
John Penn

South Carolina:

Edward Rutledge
Thomas Heyward, Jr.
Thomas Lynch, Jr.
Arthur Middleton

Massachusetts:

John Hancock

Maryland:

Samuel Chase

William Paca

Thomas Stone

Charles Carroll of Carrollton

Virginia:

George Wythe

Richard Henry Lee

Thomas Jefferson

Benjamin Harrison

Thomas Nelson, Jr.

Francis Lightfoot Lee

Carter Braxton

Pennsylvania:

Robert Morris

Benjamin Rush

Benjamin Franklin

John Morton

George Clymer

James Smith

George Taylor

James Wilson

George Ross

Delaware:

Caesar Rodney

George Read

Thomas McKean

New York:

William Floyd

Philip Livingston

Francis Lewis

Lewis Morris

New Jersey:

Richard Stockton

John Witherspoon

Francis Hopkinson

John Hart
Abraham Clark

New Hampshire:
Josiah Bartlett
William Whipple

Massachusetts:
Samuel Adams
John Adams
Robert Treat Paine
Elbridge Gerry

Rhode Island:
Stephen Hopkins
William Ellery

Connecticut:
Roger Sherman
Samuel Huntington
William Williams
Oliver Wolcott

New Hampshire:
Matthew Thornton

